

川内川流域官民の女性技術者の会について

柴田 真衣¹・横山 京人²・武山 忠¹

¹九州地方整備局 川内川河川事務所 工務課 (〒895-0075 鹿児島県薩摩川内市東大小路町20-2)

²九州地方整備局 川内川河川事務所 (〒895-0075 鹿児島県薩摩川内市東大小路町20-2)

2021年の11月に川内川河川事務所が主体となり、川内川流域の建設業に従事する女性技術者を対象に「川内川流域官民の女性技術者意見交換会」を発足した。建設産業における女性の就業促進に向け、意見交換や情報発信を行うことを目的とした女性技術者の会の取組について発表する。

キーワード 女性技術者、働き方改革、流域連携、官民連携、意見交換

1. はじめに

国土交通省では、建設業5団体と共同で「女性の定着促進に向けた建設産業行動計画～働きつづけられる建設産業を目指して～」を策定しており、実際に九州各地で官民が一体となり様々な取組を行っている。川内川河川事務所では、昨年開かれた九州女性技術者の会（九WE会）で「鹿児島ブロックで今後実施してみたい取組」というテーマの中で出た、県内の行政機関やコンサル・建設業協会と事務所で連携することや現場視察・真似したくなる取組・働きやすさなどについて意見交換を行うため「鹿児島県内の女性技術者の会を発足する」という意見をもとに、川内川河川事務所女性技術者が主体となり会を発足した。はじめに、川内川流域の女性技術者交流を目的とし、「女性定着に向けた意識改革」「建設産業の魅力構築」「技術・技能の向上」「人材確保」の4つを軸とした働きつづけられるための環境整備や、情報発信を行うことで「女性に選ばれる建設業界」を目指すため、「川内川流域官民の女性技術者の会」の活動を始動した。

2. これまでの活動内容

(1) 第1回 川内川流域 官民の女性技術者意見交換会

2021年11月24日の第1回開催に向けて、事前アンケートの実施やテーマ設定等の準備を1ヶ月程前から行い、行政11名、建設業15名、合わせて26名が集まり意見交換を実施した。実施内容・方法については、各4グループに分かれ、各グループ2つのテーマ（「共通テーマ」「グループ別テーマ」）について、付箋を利用したブレインストーミング形式で討議を行った。



写真-1 テーマ討議の様子（全体）



写真-2 テーマ討議の様子（班）

テーマ討議では、始めに「共通テーマ」について、次に「グループ別テーマ」について意見交換を行った。各テーマについては、以下の通りとした。

・共通テーマ

仕事上で自身にとってメリットのある取り組みとは何ですか？それを踏まえて、この会で何をしたいですか？

・グループ別テーマ

- ① 女性技術者として仕事上で、男性に理解しておいてほしいことはありますか。また、男性に理解してもらうためにできることは、こういった方法が考えられますか。
- ② 女性技術者として仕事での衝突もしくは苦しい思いをした経験はありますか。また、それを解決した経験があればその手法を教えてください。
- ③ 休暇を取る（残業や業務配分）等において仕事上で苦勞していることはありますか。また、そのことを改善するために意識的に行っていることがあれば教えてください。
- ④ 悩みを相談する環境はありますか。また、それはこういったものか教えてください。

テーマ設定にあたっては、事前アンケートをもとにし、各職場で実施している良い取組を共有し合い、取り入れてもらうことや、職場環境や女性という立場における悩みや不満を共有して今後に繋げていくことを重要視した。各テーマごとの設定理由としては、共通テーマ：世代関係なく意見を出すため、テーマ①：世代関係なく女性特有の想いを引き出すため、テーマ②：中堅以上の人の経験談を引き出すため、テーマ③：中堅から若手に向けて意見を共有するため、テーマ④：それぞれの環境整備の把握のためとした。

この意見交換会の結果については、図-1「職場環境・自己の意識改善へのイメージ図」にまとめて、参加者に共有した。イメージ図では項目を「育成（Promotion）」「職場（Workplace）」「生活（Lifework）」の3つに分け、「男女問わずだれもが働きやすい業界」に向けて各項目の取組内容を設定した。

第1回川内川流域 官民の女性技術者意見交換会を実施した上での反省点としては、初めての開催であったため、開催した意味や目的等が不透明だったり、参加者同士の交流もできていなかったりしたため、意見交換を実施してもなかなか会話が弾まなかった。実際に、図-1「職場環境・自己の意識改善へのイメージ図」とは別に、取組内容をさらに細かくしたチェックリストを作成したが、中身が詰まっておらず使用目的が定まっていなかった。

開催後に実施した事後アンケートの結果においても、「テーマの背景・具体例や主催側の思い・目的などが理解できず回答に困った」という意見や、「名刺交換等の交流の時間を取り入れて欲しい」という意見が見られた。

上記の反省点を踏まえ、「開催の目的や活動内容等を整理し説明を行うこと」や、「まずは、参加者同士の交流を行うこと」を目的として、第2回を開催することを決定した。

職場環境・自己の意識改善へのイメージ図

今回、女性技術者を対象にアンケート・意見交換を行い、「男女問わずだれもが働きやすい業界」を目指すための取組み項目を選出しました。

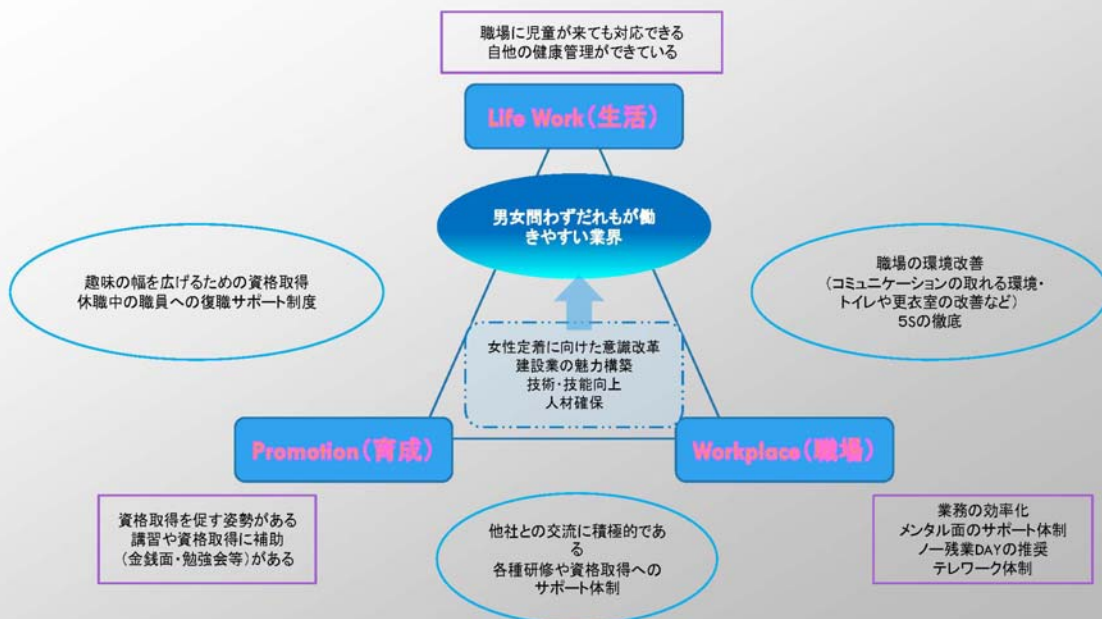


図-1 職場環境・自己の意識改善へのイメージ図

(2) 第2回 川内川流域 官民の女性技術者意見交換会

第2回となる意見交換会については、今年の5月26日に行政11名、建設業16名、合わせて27名の女性技術者に参加していただき開催した。第1回を踏まえ、開催内容を以下の主な3つとした。

a) 事務所プレゼン

第1回の反省点であった、開催の目的や活動内容等の明確化について「運用ルール（案）」に整理し、参加者へ共有した。その活動内容の一つとして、仕事内容や職場環境、女性技術者の活躍や会の取組等の情報を発信・提供できるように、川内川河川事務所HPに図-2に示すような、「川内川流域女性技術者のWEBサイトページ」を作成することを参加者に提案を行った。

発案の理由としては、一般の人に建設業の魅力をPRできたり、現場見学会や業務説明会等がなくても、学生が簡単に情報を仕入れたりできるようにするためである。また、WEBサイトだけでなく、手軽に利用でき利用も多いTwitter等のSNSでも情報を発信していく予定である。Twitterでは「#川内川流域女性技術者シリーズ」と題し、実際の現場の様子や事業の紹介、仕事以外の普段の様子等を発信していく。今後、この取組を行うにあたって、川内川河川事務所だけでなく川内川流域の女性技術者の方々に協力していただくことが必要なため、今回のプレゼンを行い、参加者の同意を得た。

川内川流域女性技術者の会の紹介ページイメージ



図-2 HP掲載イメージ

b) 意見交換

第1回の反省点を踏まえ、参加者一人一人の話し合う時間を設けるため、2人1ペアとなり2~3分程度で席替えを行う方式で実施した。名刺交換をした後に、予め提出していただいていた簡単な自己紹介や自分を作るマイルール、職場で行っている取組等をまとめた紙をもとに意

見交換を実施した。仕事・プライベートにかかわらず、自由に話していただき、参加者同士の交流を図った。

会話の中で出た意見や内容は以下のとおり挙げられた。

- ・自己紹介（職場に入って何年目か、今までの職歴（転勤等）、年齢や趣味について）
- ・現場について（繁忙期と閑散期の差が激しい、暑さがきつい、現場は日々変化があって楽しい、現場監督の補佐をしている、もっと現場に出て働きたい）
- ・職場環境（女性に対する意識が高く優遇されている、働きやすく子育てにおいて休み等の不便も無い、トイレ環境は女性にとって大切、職場に若い年代がいない）
- ・制度や取組について（女性パトロールを実施している、現場には出るが身なり（髪色、ピアス等）は自由で仕事ができれば良いというスタンスが良い）

意見交換会は、堅苦しくなく和やかな雰囲気、会話も弾んでたように感じた。参加した人の感想として「普段他社と話をする機会がないので貴重な時間になった」「同じ仕事で活躍している方々と話せて勉強になった」「会社に女性が少なく相談相手がおらず寂しいという声もあったのでこの会の継続により仲間ができれば少しでも解消になると良い」といった意見があった。女性技術者同士が横のつながりを持ち、ネットワークを広げることができた有意義な時間になった。



図-3 意見交換会の様子（HP掲載資料）

c) 事例発表

様々な取組をおこなっている2つの会社から、参加者へ向けた好事例紹介をしていただいた。1社目からは、「他社と合同で実施した女性合同パトロール」「学生向けに制作したパンフレット」について、2社目からは、「建設ディレクター導入支援プロジェクト」について発表をしていただいた。

1社目の「女性合同パトロール」については、お互いのコミュニケーションや情報交換の場として働きやすい職場の実現を目指すために、女性ならではの視点で点検を実施した。実施してみて、社間の交流ができたことや他社の安全管理・現場の簡素化等を知れたのが良かったという意見がでた。また、「学生向けに制作したパンフレット」については、デザインの工夫について発表していただいた。制作にあたって、学生の子どもの持つ女性社員の意見を取り入れたり、男女や年齢を問わず制作チームを構成したりして建設業というものを意識せず、誰でも手にしてもらえようにしたことを工夫点として挙げた。



写真-3 発表資料・風景（福地建設(株)）



図-4 パンフレット（福地建設(株)）

2社目の「建設ディレクター導入支援プロジェクト」については、現場の長時間労働を軽減し、より工事の品質向上や人材育成に注力できるよう、バックオフィスから現場を支援する建設業における新しい職「建設ディレクター」について紹介をしていただき、プロジェクトの成果発表を行っていただいた。成果については、建設ディレクターが建退共や施工台帳の修正・まとめ、安全書

類の作成、インデックス・ファイリング、変更数量計算書の作成、図面修正等を行い、管理技術者の支援を行って負担軽減になっていることが挙げられた。その一方で課題として、現場が忙しくなると書類作成時の説明が疎かになるため会社としてのサポートが必須となることが挙げられた。



写真-4 発表資料・風景（ヤマグチ(株)）

3. 課題と今後の取組

これまで当会では、主に意見交換を行い悩みや情報の共有をし、活動の軸となっている4つの観点の内「女性定着に向けた意識改革」「建設産業の魅力構築」の2項目に関することを実施し、参加者の交流を図ってきた。女性が抱える不満や悩みについて情報共有・意見交換を行い「女性定着に向けた意識改革」をし、女性技術者の活躍報告や職場環境改善に向けた取組を策定・共有・実施をし「建設産業の魅力構築」を行ってきた。

今後、当会を進めていく上での課題としては、以下の2つのことが挙げられる。

(1) 参加者の拡大

今まで計2回の意見交換会を開催してきて、各回の参加者は26~7名、官民の割合としては、官：民=6：4となっている。今後は、川内川流域の女性技術者の中でも、土木関係だけでなく建築等に応用することや建設業協会だけでなくコンサルタント協会や測量設計業協会等の様々な職種の参加者を広げていくことを目指して、検討を行っていく。また、「会社で制度や女性技術者に対して理解の差があるため、会社の人（男性）にも参加してほしい」という意見があり、女性だけでなく男性にも参加してもらうかについても議論が必要である。

(2) 会の運営

現在、川内川河川事務所が事務局となり運営をしているが、将来的には事務局を持ち回りにしてこの会を継続

させていこうと考えている。そのための運用やルール等について今後整備していく必要がある。

上記を踏まえた今後の取組としては、今までに実施していない「技術・技能の向上」の観点で、勉強会や現場見学会の実施、「人材確保」の観点で学生等の担い手確保に向けた取組を実施し、併せてこの会の方針や運用等についても整理していく。

4. おわりに

当会では、暫定版として規約を制定しているが、参加者の意見を取り入れやすくするため要望があれば随時書き足すことも可能としている。今後も参加者が一体となり、一人一人が意欲的に参加できるよう地域に根差した女性技術者の会を目指し、継続して活動を行っていく。